

地域だより 広島
ひろしま文化都市フォーラム2013
「ひろしまの都市格と暮らし」のまとめ(序)

広島支部 まちづくり委員会委員長 三島 久範

これまで「ひろしま文化都市フォーラム」では、人が集まる魅力的な街には、自然環境や人々の暮らしによってつくられる都市格（都市の性格や品格）があることに着目し、「ひろしまの都市格と暮らし」とはどのようなものかについて考えてきました。

例えば大阪には表通りとして御堂筋があり、そこには隣接する道頓堀などの裏通りがあります。現在、「くだおれの街」と呼ばれている繁華街は、1660年代に道頓堀に五座の劇場ができ、そこに多くの人が集まり、多くの飲食店が生まれたことによってできたと言われています。また、京都には表通りとして四条通りがあり、そこに隣接する花見小路や先斗町などの裏通りがあります。この裏通りは花街と呼ばれており、江戸初期からその営みは京都特有の地域経済と地域文化をつくり、今も多くの観光客をもてなしています。

しかし、戦後復興によって新しくつくられた広島の街には、相生通りや鯉城通り、平和大通りなどの表通りはあるものの、広島特有の生活・文化を感じることができる裏通りはないように思います。このため、まちづくり委

員会では、これまで下記の方々をお招きして、4年にわたるフォーラムを開催させていただき、江戸時代後期の城下町広島の歴史や生活文化、「学都」「軍都」と呼ばれた時代の「広島の日那衆と街と暮らし」、戦後復興のまちづくりと暮らしなどについて振り返ってきました。今年度は、全米でNo.1の住みたい街と言われているポートランドの都市再生の取り組みについて学びながら、環境共生時代の新たなひろしまの都市格と暮らしづくりについて考えました。

ポートランドのように、多くの人たちが集まり住みたいと思える街のアイデンティティを培っていくことは容易ではありません。しかし次世代の広島の街がそのようになることを望むのであれば、市民や事業者が「ローカルファーストの街づくり」を目指した具体的なビジョンを描き、それを実現するための各種事業を、PPP(Public Private Partnership: 官民連携)を通じて展開していくことが重要になるということを、このフォーラムを通じて学んだように思います。(詳しい内容につきましては、引き続き4月号で報告させていただきます)

■ひろしま文化都市フォーラム 2010 「ひろしまの都市格と暮らし」-1

- 第1部 「ひろしまに息づく生活文化」／中山富広氏（広島大学教授）
- 第2部 対談「ひろしまの都市格とまちづくり」
藤本昌也氏（現代計画研究所代表取締役会長）／錦織亮雄氏（広島県建築士会会長）
- 第3部 トークセッション「ひろしまの都市格と暮らし」
中山富広氏（広島大学教授）／錦織亮雄氏（広島県建築士会会長）
藤本昌也氏（現代計画研究所代表取締役会長）／佐藤伸矢氏（NPOやまなみ大学）／増田泉子氏（中国新聞）

●ひろしま文化都市ゼミナール

- 「学都広島の日と暮らし」／小池聖一氏（広島大学教授）

■ひろしま文化都市フォーラム 2011 「ひろしまの都市格と暮らし」-2

- 第1部 「軍都広島の日と暮らし」／千田武志氏（広島国際大学教授）
- 第2部 「広島の日那衆と街と暮らし」／田辺良平氏（郷土史家）
- 第3部 トークセッション「受け継がれるひろしまの都市格と暮らし」
高野和彦氏（広島市公文書館館長）／田辺良平氏（郷土史家）／千田武志氏（広島国際大学教授）
錦織亮雄氏（広島県建築士会会長）／松田智仁氏（広島市役所）

■ひろしま文化都市フォーラム 2012 「ひろしまの都市格と暮らし」-3

- 第1部 「広島の日那復興計画」／加藤浩明氏（広島市都市計画課長）
- 第2部 「広島の日那復興と市民・経済界の歩み」／高野和彦氏（広島市未来都市創造財団部長）
- 第3部 トークセッション「地域特性を活かして育てる都市の復興とは？」
加藤浩明氏（広島市都市計画課長）／高野和彦氏（広島市未来都市創造財団部長）
錦織亮雄氏（広島県建築士会会長）／細見恵氏（アトリエトリア代表取締役）

■ひろしま文化都市フォーラム 2013 「ひろしまの都市格と暮らし」-4

- 第1部 グリーンネイバーフッド「ポートランドにみる環境先進都市のつくりかたとつかいかた」
吹田良平氏（アーキネティクス取締役）
- 第2部 トークセッション「2045年を目指した広島のソーシャルビジネスとエリアデザイン」
平尾順平氏（ひろしまジグザグ学学長）／国本善平氏（広島市役所）
四居敬三氏（うらぶくろ商店街振興組合副理事長）／今井信博氏（現代計画研究所代表取締役社長）
三島久範氏（GKデザイン総研広島都市・建築デザイン部取締役部長）



MONTHLY 建築士 HIROSHIMA No.80 平成25年3月1日発行

発行 社団法人 広島県建築士会 〒730-0052 広島市中区千田町3丁目7番47号
TEL (082) 244-6830(代) FAX (082) 244-3840 URL <http://www.k-hiroshima.or.jp/>
e-mail: info@k-hiroshima.or.jp

発行人 会長 錦織 亮雄
編集人 広報委員長 神岡 千春

MONTHLY 建築士
No.80

HIROSHIMA



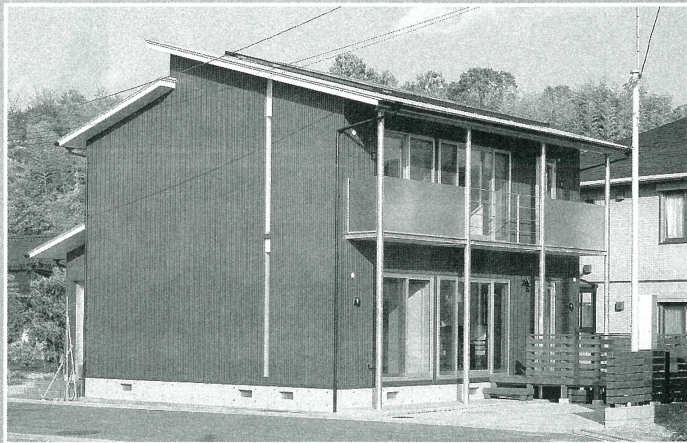
表紙写真について

阿品の家

- 設計監理／有限会社 創造建築設計社
- 施工／堀田建設株式会社
- 所在地／廿日市市阿品
- 構造規模／木造2階建
- 敷地面積／178.51㎡(53.99坪)
- 建築面積／83.83㎡
- 延床面積／128.54㎡(38.88坪)
- 竣工／平成24年11月
- 撮影／井上写場

敷地は平坦な住宅地に位置し、南側は施主の実家、西側は私道に面している。

居間はいつも家族が集まりたくなるような、明るくて開放感のある空間にしたいと考え、吹抜けとした。また2階は居間の吹抜けの両脇を子ども部屋として、開閉窓を設置することにより、いつもお互いの気配を感じることができ、家族が一体感を持てるものとした。



極力ランニングコストが掛からない、年中快適でエコな住宅を目指し、重力換気・風力換気ができる断面計画とし、高性能な外断熱材を使用した。また仕上げ材については、時が経つにつれて古くなるのではなく、味が出るものを積極的に使用し、将来的に修繕費も掛からないように配慮した。

住宅のみならず、建築物は竣工した時点が一番ではなく、時代が変わっても使用する人と一緒にいかに良い歳を重ねるかということが重要であると考えている。

(有)創造建築設計社 木下 和夫

ぷろじえくと ニュース PROJECT NEWS

●建築士試験合格祝賀会 「祝!!合格 お祝いの会」開催

交流厚生委員会

今年度、建築士試験に合格された皆様、おめでとうございます。新しい仲間の誕生を心から喜んでおります。そこで、交流と情報交換の場を設け、皆様をご招待させて頂くことにしました。この機会に是非、同じ合格者の方々や当会の会員と一緒に、今後の仕事や活動のことを語り合いたいと思います。身近にいらっしゃる合格者に是非ご案内下さい。

日時 平成25年3月16日(土)
・ミニセミナー
「今、建築士に必要なことは…」
15:30～17:00
・合格祝賀会 17:00～

場所 広島県建築士会 会議室

対象者 平成24年度の一級、二級、

木造建築士試験に合格された方

●参加ご希望の方は、事務局へ電話(082-244-6830)でお申し込み下さい。

CPD認定プログラム(3月の広島県内実施分)

2月13日現在

1時	プログラム名	単位	主催	連絡先
2/4	コンクリート調査の実践 ―意味のある調査とするために―	2	総合コンクリートサービス	042-558-6637
3/4	ひび割れなしを実践する! ―効果的な実践法―	3	総合コンクリートサービス	042-558-6637
3/6	すべての建築士のための総合研修	4	広島県建築士会	082-244-6830
3/7	設計に活用できる環境・防犯・改修関連セミナー	3	広島県建築士会福山支部	084-923-4820
3/9	連続セミナー「建築論の現在」第13回 カタストロフィーと建築論	3	日本建築学会	03-3456-2051
3/28	ひろしま地盤セミナー	4	ハイスピードコーポレーション(株)	089-989-0093

地域だより 尾道

「設計者のための 木造実践セミナー」 尾道講座

尾道支部 元廣 清志

公共建築物の木造化が謳われる中、住宅木造分野における木造利用が重要となっています。平成25年1月12日、尾道支部も共催した本講座では、専門的な技術に精通している講師が、木質構造の設計業務を分かりやすく解説しました。木造設計に役立つ知識、技術の習得を目的に、約50名の参加者がありました。

第1講座は「防耐火木造建築物・下馬の集合住宅プロジェクト」と題し、「桜設計集団一級建築士事務所」代表の安井昇氏と、佐藤孝浩氏に講師をお願いしました。第2講座は「低コスト木造建築物」と題して、NPO法人「Wood AC」代表の河本和義氏、第3講座は「2階建木造住宅の構造計算」と題して、「広島耐震診断(協)」監事の元廣清志と副理事長の土岡民明講師が担当いたしました。木造に関する盛りだくさんな講義の1日でしたが、参加者は皆、熱心に受講されました。



私たちがめざしているのは
人の感性にもっとやさしく触れてくる街。
そのために、建築の領域を大きく広げ
それぞれの最先端技術に磨きをかけています。
www.takenaka.co.jp

想いをかたちに
竹中工務店
お問い合わせは ――― 広島部へ
〒136-0075 東京都江東区新砂1丁目1-1 Tel. 03(6810)5140
〒541-0053 大阪府中央区本町4丁目1-13 Tel. 06(6263)5605

安全で安心な住まいづくりをサポートします。

> 事業内容 ① ② ③ ④

フラット35適合証明業務

住宅金融支援機構と提携した金融機関の「長期固定金利」による住宅の取得を支援するため、新築住宅及び中古住宅の適合証明業務を行います。

- ◎通常…住宅金融支援機構が定めた技術基準に適合しているか検査を行います。
- ◎優良…バリアフリー性能、耐久性能等が一定レベル以上の住宅には金利の引下げが受けられます。
- ◎中古…中古住宅(一戸建て・マンション等)の技術基準に適合しているか検査を行います。
- ◎賃貸…賃貸住宅(ファミリー対応・高齢者対応)の技術基準に適合しているか検査を行います。



指定確認検査機関・登録住宅性能評価機関

株式会社 広島建築住宅センター

本社／〒730-0013 広島市中区八丁堀15-10 TEL(082)228-2220 FAX(082)228-2231
営業所／〒720-0034 福山市若松町8-22 TEL(084)928-3979 FAX(084)928-3974

www.hkjc.co.jp

株式会社 ティーエス ◆ ハマモト

一級建築士事務所 ISO9001 認証取得



大規模修繕工事
各種環境対応事業
調査 診断 設計 施工

〒731-0135 広島市安佐南区長束4丁目16-2
TEL 082-238-1511 FAX 082-238-1513

修道学問所の蔵 復元工事

広島修道学園に、1棟の広島城の遺構であるとされる蔵を移築復元している。まだ工事途上にあるが、以下にその発見と復元の経過を報告する。

広島城学問所の蔵発見の経緯

加藤 早苗（古民家研究会）

25年前、錠前に興味を持ち、全国の骨董市に奔走した。錠前の中には作者の国名、名前を刻印した物もあり、錠前を分類し、「和錠図鑑」を出版。「和錠図鑑」の出版を機に、全国からの問い合わせで、蔵の施錠方法に興味を持った。そこで広島県の土蔵調査を始め、最終的に中四国地方の土蔵を調査。17年前の土蔵調査の途中、西国



解体前の外観(背面)

街道沿いの広島市東区愛宕町の蔵に行き当たった。風格のある土蔵は、「広島藩士であった曾祖父が、明治の初

め、広島城から譲り受けた」、と所有者から聞いた。

広島大学大学院文化学研究科教授三浦正幸氏に蔵を見もらったところ、

- ①柱や梁のカナナ仕上げが19世紀前期の仕事である。
- ②1間の長さが広島城と同じ6尺3寸(1.9m)である。
- ③棟梁は豪華で太い枅材を使っている。

などにより、「広島城の遺構であるのは、ほぼ確かだろう」とのことであった。

「曾祖父が広島藩士」という説明について、「芸藩志」21巻に「鼓手 三石 山口愛次郎」の名前を見つけた。愛宕の蔵の剥落瓦の刻印「塩利」は、「史跡広島城跡本丸遺構保存状況調査報告書」2004年版の中に合致する

ものがあった。広島城郭古図面の本丸、二之丸、三之丸に蔵と推察できる建物を約40棟確認。愛宕の蔵と平面の大きさ(2間×3間)と出入口扉の位置(妻入)が合致する蔵が三之丸学問所に2棟あり、どちらかの蔵と思われる。

以上の状況から、愛宕の蔵は広島城三之丸学問所の蔵であろうと考え、広島藩の藩校を前身とする修道学園に紹介した。

修道学問所の蔵 移築復元工事の経過

錦織 亮雄（新広島設計）

平成22年7月頃、旧持ち主の都合もあって、この蔵が取り壊される寸前になっていた。加藤早苗氏本人をはじめ、広島市の文化財担当や修道学園などから、急を要する話としてこの蔵のことを聞き、さらに修復保存についての相談を受けた。広島市からは、正しく移築されれば文化財指定の可能性が大きいということであった。また修道学園からは、本校にゆかりがある可能性があるので学内へ移築保存したいが、移築費用などを含めてどのようにすべきかという総合的な相談であった。文化財としての可能性と価値、解体移築の方法及び手続き、復旧に係わる法の制約、建物の維持管理、さらに具体的な費用等々、さまざまな要因が絡んでいたため、それらを総



解体前の内部(1階)



解体中の小屋組み

合的に解決していく役目を、総合管理者として私が負うこととなった。

平成22年8月には、修道学園同窓会の寄付によって費用を調達する見込みが立ち、修道学園が持ち主に寄贈を受けて学園内に移築することが決定した。平成22年9月から現地調査を開始。広島市の文化財担当、文化財建造物保存技術協会、広島大学の三浦教授など多数の関係者の協力を得ながら、各部材の時代や状態の検証、解体、補修、移築の方法、文化財的価値の確認、被爆や風水害などによる被害状況やその補修の調査を行い、この蔵の価値を確信するとともに、解体と移築の方針を決定した。

平成22年9月末に解体工事に着手。現状の詳細な写真を撮りながら、各部詳細寸法を入念に記録し、慎重に解体していった。木材、瓦、石、土造の扉、金物等は損傷の激しい物も含めてすべての材料を解体保存。土塗り壁及び木舞組は、かたちとして保存復元は不可能であったので、1部のサンプル以外は廃棄した。各解体材料についてはそれぞれに保管場所を限定して、安全に保存した。

その後、移転場所の決定、概算予算の調整、費用調達活動などを行い、平成23年7月に復元のための設計を開始。12月に確認申請した。この蔵は文化財の認定を受けることを前提としているが、移築中は未指定であったため、法3条による「適用の除外」に該当しない。しかしながら、移築は文化財の保存として行うので、基準法に適合しない部分があり、構造に係わる火打ち梁、土台と



解体後各材料ごとに並べる

基礎の緊結、補強金物など苦心の調整が必要であった。

平成24年4月、(株)フジタの施工で復元工事に着



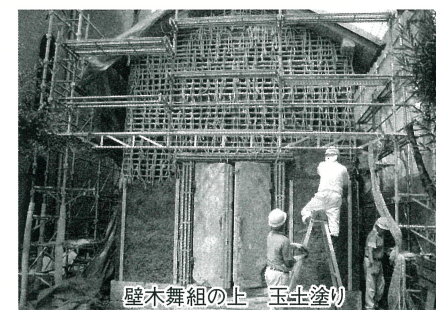
木材不良選別と補修方法の検討

手。大工、左官、瓦葺き、石工のすべてに熟練の職人を当てて、慎重に仕事を進めた。建物は2間×3間と小規模であるが、木材1本1本、細部の収まり1カ所1カ所について工法上の確認判断が必要であった。文化財保存であるから原則、使える部分はすべて残すのであるが、損傷した部分の補修について、不良選別、新材との接合、配置調整、不足の新材補充など、文化財建造物保存技術協会の岡信治氏の指導を受けながら、慎重な工事を行った。

平成24年7月に上棟。10月時点で外壁荒壁塗りまで完成し、現在はまだ半年かけての養生期間中である。これからむら直し、中塗り、上塗り仕上げ、漆喰仕上げと、工程ごとに養生期間を置きながら仕上げ、平成26年の秋頃には完成する予定である。完成すれば広島市の文化財の指定を受けることになる。

現在の荒壁の表情は特に趣があるが、完成すれば見ることができないので、この時期に発表することにした。

特筆すべきは、関係者が苦心して残したこの蔵は、広島旧市内に残る唯一の江戸時代の建物ということになる。



壁木舞組の上 玉土塗り



荒壁塗り完成の現況

既存建築物の耐震診断・改修計画判定業務を行っています

(既存建築物耐震診断・改修等推進全国ネットワーク委員会加入)

- | | | |
|----------------|------------------|-----------------|
| ■ 指定確認検査機関 | ■ 登録住宅性能評価機関 | ■ 指定構造計算適合性判定機関 |
| ■ 登録建築物調査機関 | ■ 適合証明業務(フラット35) | ■ 長期優良住宅認定審査業務 |
| ■ 住宅瑕疵担保責任保険業務 | ■ 調査診断業務(耐震診断等) | ■ 耐震診断判定業務 |
| ■ 住宅エコポイント関連業務 | | |

皆様に、より良いサービスの提供に努めてまいります。



株式会社 ジェイ・イー・サポート

代表取締役 石山 講

URL <http://www.jesupport.jp/>

本社〒730-0029 広島市中区三川町7-1
SK広島ビル4F

TEL:082-546-1378 FAX:082-249-7190

e-mail: mail@jesupport.jp

支店:東京・札幌 営業所:呉

指定確認検査機関
(中国地方整備局長指定第1号)

登録住宅性能評価機関
(中国地方整備局長登録第5号)

登録建築物調査機関
(中国地方整備局長登録第1号)



HOUSE PLUS

ハウスプラス中国住宅保証株式会社

〒730-0042 広島市中区国泰寺町1丁目3番32号
TEL:082-545-5607(代表) FAX:082-545-5608

